

「持続可能な開発目標（SDG s）の中で一つ目標を選ぶとしたら、どのような理由でどの目標を選ぶか。また、その目標をどのように達成するか。」

愛媛県代表 宇和島市立城東中学校 3年生 小倉 都嵩

— SDG s - 16 —

今日は、「終戦の日」である。戦後七十七年が経ち、テレビで追悼式が行われている。私の住んでいる愛媛県宇和島市も、太平洋戦争の末期には、空襲を受けて多くの人々が亡くなった。

私の祖母は、合唱活動を長くしており、その団体は、宇和島市戦没者戦死者合同追悼式や宇和島空襲死没者追悼式で平和を願い、歌い続けている。そのことについて話を聞いた際、「平和の鐘」に関することを耳にした。その鐘は、私の家の近くの泰平寺というお寺にあったのだ。

第二次世界大戦の激戦地ビルマ（現ミャンマー）の仏塔の下で生き残った中川千代治さんという方が、主張、宗派、人種、国の違いを越えて、「世界の絶対平和」と「二度と戦争をしてはいけない」ということを訴えるために、世界中のコインを集めて鐘を鑄造し、昭和二十九年にニューヨークの国連本部に贈呈されたとのことだ。その後、一キログラムのレプリカの鐘を造り、世界各国を訪れ、「戦争は人間の心が間違っているからこそ起こる」「平和の鐘の音により、人々に平和の心呼び起こす」という信念を持ち、鐘を贈り続けられたということだ。現在は千代治さんの娘さんが、その意志を受け継いで活動されている。

しかし、今なお、世界のどこかで紛争や戦争などが起こっている。それらが原因で、難民の数が増え、全世界で日本の人口と同じ一億人を超したという。また、貧困や飢餓、保健衛生の悪化、人権侵害など、SDG sのあらゆる目標の達成が阻害されている。今現在、国連に加盟している国は、百九十三か国だ。それぞれの国が宗教や価値観の違いはあっても、戦争のない平和な世界になってほしいという考えは、誰しも同じだと思う。しかし、なぜそんなひどい争いが起こるのだろうか。歴史を見ても同じ過ちをくり返している。争うことはなくならないのだろうか。

いま一度、「平和」とは何なのだろうかと考えてみた。すぐ頭に思い浮かんだのが、戦争や紛争のない世の中だ。もう少し考えてみると、自分にとって安心して生活を送ることができる毎日もまた、平和の一つだと考えた。

「平和」とは、国と国の戦争問題だけではない。まず、身近な人々が平和でなければいけないと思う。そんな一人一人の平和から、世界の平和につながっているのではないかと考えるようになった。

まず、中学生の私にできることは、学校生活のなかでも、お互いを尊重し、自分の考えと違っていても、相手の言葉に耳を傾けて理解しようとする事だ。今の私には、世界の争いを止めることなどできない。しかし、新聞やテレビなどを通して、常に世界の出来事に感心

を持つことが大切だと思う。遠く離れた国のことは、自分とは関係のないことではないのだ。また、小さなことだけれど、古切手や未使用切手、書き損じハガキ、年賀状の余りなどを寄附して、飢餓に苦しむ人々の力になるよう協力し続けたい。そして、今世界で起こっている現実を、自分のこととして捉え、自分自身の考えをしっかりと持てる人間になりたい。

日本は、世界でただ一つの被爆国だ。第三次世界大戦を起こさないためにも、被爆国として、核兵器のおそろしさを訴え続けなければならないと思う。

ユネスコ憲章の前文の冒頭で、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心に平和の砦を築かなければならない」と宣言している。本当の「平和」は世界中の国の一人一人が国連の平和の鐘の精神を響かせれば、争いなんてなくなるのではないだろうか。

私はこの夏、泰平寺に行き、この宇和島の地から、鐘を鳴らして「世界絶対平和」を祈った。